

エゼキエル書 34 章 9-16 節 「真の牧者」

正しいリーダー、真のリーダーとは、どのような人物でしょうか？エゼキエルは捕囚地バビロニアで立てられた預言者です。紀元前 587 年にエルサレムの町は占領され、イスラエルは完全に滅ぼされます。エルサレムの陥落は、捕囚民にとって最後の望みの綱が切れたことを意味します。もう帰る場所が無くなった、と。その絶望する民に、エゼキエルは再び語り始めます。それが 34 章の羊飼いの預言です。真の牧者が私たちに与えられる、だから希望を捨てるな、と。

イスラエルが何故滅んだのか、それはイスラエルの民の罪のためだとエゼキエルは伝えます。「自分を養う羊飼い」たち、すなわち国の指導者たる歴代の王たちが、民のことを考えずに保身に走ったことに原因があったと預言者は語ります。エゼキエルは、ここで主による新たな救いを明らかにしています。それは、「イスラエルの牧者」として立てられた国の指導者たちではなく、主ご自身による介入によって始められる救いでした。主は「自ら群れを探し出し、諸国から集め、世話をする」と言われます。具体的には散らされた民が再び集められる、すなわち捕囚からの解放が、9 節以降で預言されています。しかし国の滅亡をもたらしたものは、王や指導者だけの問題ではなく、国民の問題でもありました。従って国民である羊の群自身も同時に裁かれます。それと同時に、イスラエルの復興と回復も 17 節以降で伝えられています。神自身がふさわしい方を、解放者メシアを贈ってくださる、と。人々は「メシアが現れてイスラエルを救う日が来る」と期待し続けました。そして 500 年後、ダビデの子孫から生まれた一人の方、「ナザレのイエス」が現われるのです。

そのイエスさまは、ご自身を「わたしは良い羊飼いである。(ヨハネ 10:11-13)」と人々に宣言なさいました。エゼキエル 34 章では神さまが「自分を養う羊飼い」を退けられ、「民を養う真の羊飼い」を起こすことが預言されています。イエスさまは自分こそがその預言を満たす者との認識を持って、この話を語られたのでしょうか。良い羊飼いは自分の羊のことを気に掛け、羊のために命を捨てます。良い羊飼いの最大の関心は、自分ではなく羊です。そしてイエスさまは実際に、彼の群れのために命を捨てられました。イエスさまが十字架で死なれた時、弟子たちはイエスさまを見捨てて逃げましたが、復活後主イエスは弟子たちに現れ、弟子たちを一言も非難せずに赦し、彼らに「私の羊を飼いなさい」と命じます(ヨハネ 21 章)。この赦しと委託を受けて、弟子たちは伝道を始め、教会を建てていきました。それから 2000 年が経ち、この弟子たちの業を継承するのが牧師であると理解されてきました。ですが、私たちは主イエスが誰に羊の群れを委託されたのかを、もう一度問い直す必要があります。イエスさまは弟子たちに、すなわち教会の群れに、羊を養うことを委託されています。牧師だけでなく、私たち一人一人が羊飼いに、牧者にされる必要があります。教会とは自分の救いを求めてきた人たちが、他者の救いのために祈る者に変えら

れて行く場所だからこそ、教会に集うすべての方が牧者として遣わされているのです。

イスラエルの滅亡、捕囚、民の離散の原因は、「イスラエルの牧者」とされた国の指導者の私腹を肥やす罪にありました。その結果もたらされた民の悲惨を、神さまはそのまま見捨てることはなかったのです。歴史における神の介入、「わたしは失われたものを尋ね求め、追われたものを連れ戻し、傷ついたものを包み、弱ったものを強くする。しかし、肥えたものと強いものを滅ぼす。わたしは公平をもって彼らを養う。」(16節)という意味を示されるこの神さまこそ、その悲惨な民の現実を変える唯一の揺るぎない力です。そして真の牧者として与えられた主イエスを信じることで、私たちに平安が与えられるというのです。アドベントのこの時。真の牧者として与えられる主イエスのご降誕を、心より待ち望みたいと願います。また、主の民であるパレスチナの方たちのことを覚えて、真の牧者による真の平和が与えられますようにと切に祈ります。